

Business Report

Japan
Medical
Dynamic
Marketing,
INC.

MDM 株式会社 日本エム・ディ・エム

第47期 中間

2018年4月1日 ▶ 2018年9月30日

証券コード：7600

トップインタビュー

収益力強化と成長基盤の確立により 持続的成長を実現していきます。

代表取締役社長

大川 正男



Q 》 当期前半の営業状況について
ご説明願います。

A 》 日本・米国とも好調に推移し、上半期売上高の過去
最高を更新。減益予想から増益に転じました。

国内では4月に償還価格が引き下げられましたが、当社の国内売上高は、骨接合材料を中心に前年同期比7.0%増の伸長を果たし、米国売上高も人工関節の販売拡大が続き、同27.4%増（円貨換算後・外部顧客売上高のみ）と躍進したことから、全体の売上高は75

億円を超え、上半期の売上高として過去最高を更新しました。

利益面は、人員増強や設備投資への費用増を見込み、当初は減益を想定していましたが、増収効果によりカバーし、増益となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、米国連邦法人税の引き下げによ

る影響も加わり、同22.1%増の大幅増益となっています。

国内の営業状況を振り返ると、人工関節は、米国子会社Ortho Development Corporation（以下、ODEV社）による自社製人工股関節「Ovation Stem」が発売後7年を経過し、販売が減少したことから、前年同期を下回る売上となりました。骨接合材料は、「ARISTO ネイルシステム」「MDMプリマヒップスクリューステム」とその固定性を高める「プリマヒップスクリューステム サイドプレートシステム」など、近年投入したODEV社製品の販売が増加し、今後の成長が期待できる他社製品「ASULOCK（OM Femoral Nail システムⅢ）」も順調な伸びを示した結果、全体の業績を牽引する売上拡大を遂げました。脊椎固定器具は、「リゾルプ ハロー システム」や前期に発売した「KMC Kyphoplasty システム」「Mendec Spine 骨セメントキット」など他社製品の販売が増加し、売上を伸ばしました。

米国の営業状況は、人員拡充により全米で新規顧客の開拓が進み、代理店・エージェントの増加による販売体制の強化を果たすと同時に、医師向けセミナーなどの開催も波及効果をもたらした結果、西部地区・東部地区ともに売上が急成長しました。米国事業の中心となる

人工関節は、ODEV社による新製品として人工股関節「Entrada Hip Stem」と「Legend Cup」を今年から本格展開したことにより、この2製品を使用する医師が大幅に増加し、販売拡大につながりました。

Q》「MODE2020」初年度の立ち上がりはいかがですか？

A》4つの重点施策の確実な立ち上げに注力し、3年後の成果に向けた布石を打っているところです。

当社は、2021年3月期を最終年度とする3か年中期経営計画「MODE2020」をスタートさせました。本計画は「患者様のQOL向上に資する」をテーマに掲げ、「オーガニック成長領域」における収益力の強化と「戦略成長領域」における成長基盤の確立を図り、中長期的に利益の伴った持続的成長を目指すものです。

計画初年度の当期は、重点施策である「製品開発力・製造力の強化」「海外ビジネスの拡大」「日本市場における注力販売製品分野のシェア拡大」「更なる効率化とSCM強化」の確実な立ち上げに注力し、3年後の成果に向けた布石を打っているところです。

「製品開発力・製造力の強化」では、高付加価値製

Medium-term Management Plan

中期経営計画 MODE2020

● 中期経営方針

オーガニック成長領域における収益力の強化と、戦略成長領域における基盤を確立すると共に、戦略実行体制の強化を図り、中長期的に利益の伴った持続的成長を実現する

重点施策

- ① 製品開発力・製造力の強化
- ② 海外ビジネスの拡大
- ③ 日本市場における注力販売製品分野のシェア拡大
- ④ 更なる効率化とSCM強化

● 定量目標

(単位:百万円)

	第46期 (2018.3)実績	第47期 (2019.3)目標	第48期 (2020.3)目標	第49期 (2021.3)目標
売上高	14,807	15,750	17,000	18,700
営業利益	2,045	2,250	2,450	2,800
経常利益	1,964	2,100	2,300	2,600
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,425	1,500	1,650	1,900
自己資本利益率	11.2%	11.3%	11.4%	12.3%

品として開発した「Entrada Hip Stem」の米国本格展開がオーガニック成長領域における成果を上げており、今後は日本国内販売に向けて薬事申請を行う予定です。戦略成長領域における動きでは、ODEV社工場の製造能力を拡大すべく、物流倉庫の拡大・移転と製造機械の追加導入を進めています。

「海外ビジネスの拡大」では、米国における人工関節シェアの拡大をオーガニック成長領域のコアと位置付ける一方、戦略成長領域においては、米国で股関節骨折治療への参入を目指し、また中国で展開する人工関節事業の基盤の確立に向けて、現地に駐在員事務所を開設し、8月には初症例となる手術が行われました。中国に続くオーストラリア展開についても薬事承認取得など販売開始に向け準備中です。

「日本市場における注力販売製品分野のシェア拡大」では、「ASULOCK」や「MDMプリマヒップスクリューシステム」「プリマヒップスクリュー サイドプレートシステム」の販売拡大を通じて、オーガニック成長領域における成果を生んでいます。戦略成長領域では、日本特殊陶業株式会社との新製品の共同開発に取り組んでいます。

「更なる効率化とSCM強化」では、4月に「SCM本部」を設置し、在庫管理の最適化を図ることで、営業機会損

失の極小化とサービスレベルの向上、1症例当たり物流コストの改善を目指す取り組みを開始しました。戦略成長領域においては、インプラント・医療工具の原価低減に向けて、海外調達を強化していく考えです。

当社は、「MODE2020」の重点施策を着実に遂行しながら、事業の「垂直統合」に求められるODEV社との人事交流の強化と業務運営の深化、そして「水平展開」に求められるグローバル人材の育成を推進するなど、戦略実行体制を強化することにより、「MODE2020」が描く未来を実現してまいります。

Q 》 今後の展開と通期の見通しについてお聞かせください。

A 》 売上拡大と収益性向上で成長投資による費用増をカバーし、通期業績目標を達成する見通しです。

下半期の営業状況は、引き続き日本国内・米国ともに堅調な推移が見込まれ、特に「ASULOCK」「Entrada Hip Stem」「Legend Cup」の販売拡大が期待できると見えています。

以上を前提に、売上高の拡大と収益性の向上に努め、成長投資による費用の増加をカバーすることで、通期業績

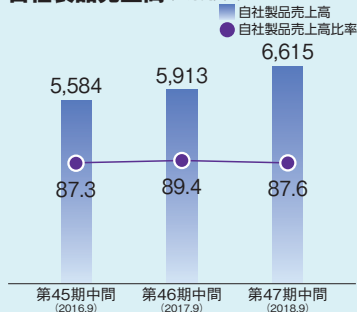
Financial Highlights

連結業績ハイライト

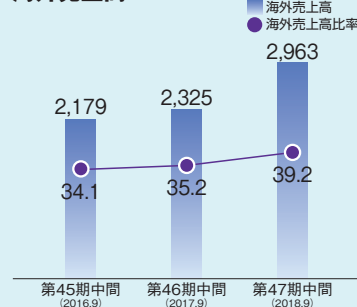
売上高 (百万円)



自社製品売上高 (百万円) (%)



海外売上高* (百万円) (%)



*ODEV社の決算末日は3月31日であり、海外売上高についてはODEV社の4月1日～翌年3月31日の12ヶ月間の販売実績を掲載しております。

については、為替変動のリスクがありますが、期初の目標を達成できる見通しです。

なお、新たな事業展開として、ODEV社はこの10月、同社製人工膝関節スペーサーモールド「KASM」について、米国Johnson & JohnsonグループのDePuy Synthes Sales, Inc.との間で、米国市場における販売提携契約を締結しました。「KASM」は、従来から当社が日本および米国での販売を行っていましたが、今後は本契約のもと、DePuy Synthes Sales, Inc.の販売網を活用し、米国の医療従事者に販売していきます。米国事業にさらなる成長をもたらすことが期待されますが、業績への本格的な寄与は来期以降になる予定です。

Q 》 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A 》 ESG経営の推進と事業の「垂直統合・水平展開」を通じて自らを進化させ、新しい時代を切り拓きます。

「MODE2020」では、中期経営方針・重点施策と合わせ、「ESG（環境・社会・ガバナンス）経営」を持続的成長へのテーマとして打ち出しています。

「最先端の優れた医療機器の開発と販売を通じて、医

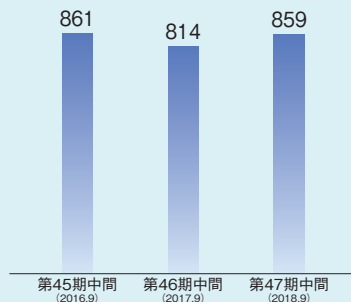
療に貢献する」を経営理念に掲げる当社は、その実践により患者様のQOL向上と健康年齢の延伸を支え、社会価値の創造を果たしています。同時に、社会の公器として法令を遵守し、上場会社に求められる経営の透明性・公正性を維持するために、コーポレート・ガバナンスの構築と実効性の確保に努め、また、社会との共存・共栄を目指す企業にとって重要な責務である環境保全活動に注力しています。

当社は、このESG経営を推進しつつ、「MODE2020」が標榜する事業の「垂直統合」と「水平展開」を通じて自らを進化させ、新しい時代を切り拓いてまいります。

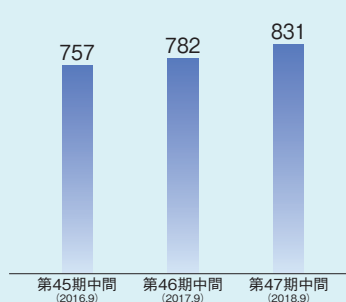
株主の皆様におかれましては、これからも長期的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。



営業利益 (百万円)



経常利益 (百万円)



親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)

